

平成29年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈弥勒園

1. <<基本方針>>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

2. <<中長期計画>>

●最終目標 『心地よい大慈』

●中長期目標

- ①プライベート空間の創設で心地よい住まいの提供
- ②基本介護の向上で自立支援を図り、心地よい生活を支援するケア
- ③次世代を担う優秀な職員の育成

●平成29年度重点目標

『all for one』・・・組織力の強化

- ①円滑な情報の共有
 - ・ICT（情報処理や通信に関連する技術）を導入し遠藤メソッドを活用する
- ②プライベート空間を意識した計画的な改修工事の実行
 - ・施設改修計画立案
- ③介護職員の腰痛者を45%以下に減少（2016年52%）
- ④自立支援+口腔ケアを推進する
- ⑤職員会議で、部署間の課題解決に向けた具体策を提示し、実行していく

3. <<部門別目標>>

<ケア部門>（1F→プラム棟、3F→一般棟）

◎プラム棟：『チーム力の向上』

①認知症ケアの質を上げる

数値目標は達成しており、口腔ケアメンバーも増やす事ができている。数値にこだわり過ぎるあまり、質の部分では改善が必要と感じており、今後取り組んでいきたい。

②環境改善を行い毎月のオムツコストを前年度の同月コストより10%減少させる

フロア環境整備やゲストの整容面での意識は高まっており、結果、更衣回数的大幅な減少に繋げる事ができた為、維持していきたい。今後はフロア以外の部分(居室・車椅子・その他の空間等)にも着手し、過ごしやすいフロア作りを目指したい。

◎一般棟：『24時間シートを作成し、1日の過ごし方が考えられることで、心地よい生活が送れる』

①一部介助者の運動機能維持・向上

上半期にて立位保持運動や個別でのリハビリを生活の中で出来る範囲で行い、一人一人に何か役割や日課を持って頂けるようチーム会議等を利用し話し合っていたが、下半期に入り、人員不足の影響が大きくチーム会議・全体会議の実施が困難となり、話し合う場が減った事で目標を見失ってしまっていたように感じる。

②水分摂取量1, 300ml 摂取を目標とし、一部介助者の自力摂取を継続

給食委員会の職員が中心となり、個別での食事配膳方法（食事シート）を作成し、食事・水分摂取量の増加と安定を図った。しかし、ADLの低下・看取り期のゲストが多く水分摂取量の平均は目標値にはほど遠いものであった。しかし、下半期に入り、居室で過ごされる方の水分量の増加を考え、水筒を午前・午後と配った事で、摂取量が上がり、安定した数値が続いた。

③更衣回数の減少を目標とし、一部介助者のトイレ使用の継続

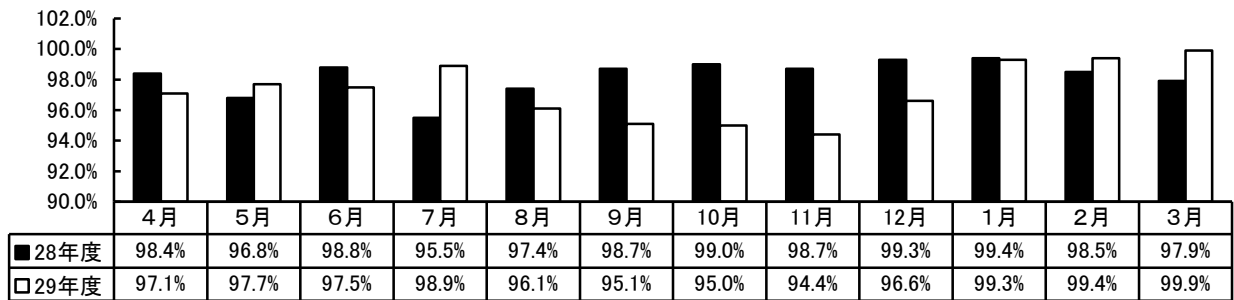
上半期にてゲスト個別で排泄物品をチームの職員が中心となり考え、モニタリングを行った。下半期にかけて、毎月、個別で尿・便失禁による更衣回数をカウントし物品が妥当か、PDCAサイクルに基づき、誘導・交換時間が妥当かの検討・変更行う。結果、更衣回数自体は減少したが、低栄養状態・看取り期のゲストが多く、褥瘡形成予防の為、排泄交換回数の増加や通気性の良い紙おむつの使用に至り、コスト自体の削減は前年度と比較すると実現できなかった。

<経営部門>

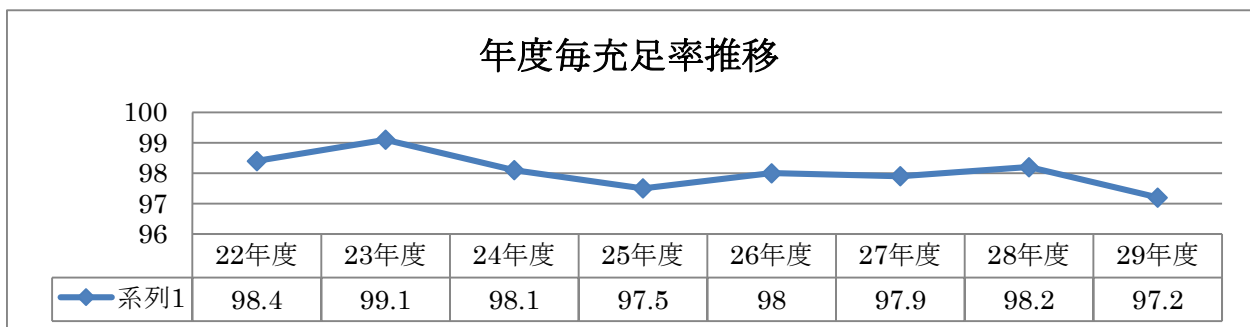
- ①充足率98%維持を目指し、経営基盤の安定を図る
- ②新たな加算を取得することで、収入アップを目指す
- ③紙おむつ代の削減の継続を図る
- ④人財確保及び新規顧客獲得のため、広報活動の推進を図る
- ⑤介護福祉士資格取得支援制度の拡充を行う

入院者の増加等が理由で充足率が低下している。11月には94.4%まで下降し、一年を通じて不安定な状態が続いた。しかし、1月～3月は99%台まで回復することができた。介護福祉士資格取得について、実務者研修へ6名が受講し3名が介護福祉士資格に合格することができ、制度の成果がでている。

●平成29年度月別充足率表



●年度別充足率推移 (%)



●※1 入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
①29年度	33	0	25	19	28	11
②28年度	36	2	18	15	32	18
③27年度	31	0	27	15	26	5
増減①-②	-3	0	+7	+4	-4	-7

●介護度別年齢別等人数表

平成30年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間2.9年(男性2.7年、女性3.1年)、最高滞在期間11.7年(女性)

要介護度	平成29年度				平成28年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	4	1	3	89.0歳	9	2	7	89.4歳
2	8	0	8	89.2歳	9	0	9	89.0歳
3	39	11	28	86.0歳	25	7	18	84.1歳
4	26	9	17	86.6歳	33	8	25	86.8歳
5	22	2	20	85.9歳	22	3	19	87.6歳
合計	99	23	76		98	20	78	
平均介護度		3.4	3.5	3.45		3.5	3.5	3.5
平均年齢		83.3歳	87.5歳	85.4歳		81.9歳	88.0歳	86.7歳
最高年齢		97歳	100歳			96歳	107歳	
最小年齢		59歳	65歳			58歳	64歳	

<理学療法科>

- ①日常生活レベルの変化に順じた対応ができる
- ②個別に対応した運動提供ができる

年間を通して、ゲスト個々の機能レベルの変化に対しての対応は、現場と連携を図ることで早期に対応でき、現場での対応の指示・指導を実施する事ができ、日常生活介助の中で適切なケアができていたと思われる。また、状態・対応等の変更等に関してのご家族への報告・説明も、カンファレンス等を通じて伴って実施できた。

●業務実績

- 物理療法・・・年間 278回(28年度219回)
- 運動療法・・・年間 204回(28年度249回)

<看護部>

『園での生活が心地よいと思えるヒューマンケアリングを展開する』

- ①フィジカルアセスメントを行い健康問題を把握することで適切で安全な看護を提供する
- ②メンタル面の健康障害に着目し、適切なメンタルヘルスケアを提供する

事業目標の安全なサービスについては、現場職員と情報共有する事も定着化してきていると考える。又、ご家族への報告等についても面会時に各フロア看護師から状態報告する事で共有出来ている為、状態変化時には、スムーズな対応が行えるようになった。看取りケアについても他職種間で調整連携することができており質の向上にも反映していると考え。又、必要な医療的ケアについては、食事・水分等のアセスメントを行ったり、現

場職員に日々の状態についても確認する事で共有した対応が行えていることは評価できる。しかしながら、皮膚トラブルに関して、状態に応じて軟膏の種類も違って来る為、外部受診が必要になってしまったことは残念である。今後は、早期判断することで早期軽減に努めたい。

●年間業務

月	項目	内容
6・7月	職員定期検診	胸部X線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎X線（介護職のみ）
11・12月	ゲスト・全職員	インフルエンザ予防接種
	ゲスト定期検診	胸部X線、採血等
1月	介護職員定期検診	採血

●週間診療表※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

曜日	午前 午後	診療科目	頻度
月	午前・午後	内科	毎週
	午前	歯科	毎週
火	午前・午後	内科	毎週
	午後	精神科	毎週
水	午前	整形外科	毎週
	午後	皮膚科	月2回
		歯科	毎週往診
木	午前	内科	毎週
	午後		
金	午前	内科	毎週
	午後	糖尿内科	
土	午前	内科	毎週
	午後	精神科	

<栄養科>

- ①調理の味と質の安定を図る（3カ年）
- ②大慈園全体の食事ケアの向上を図る

調理の味と質の安定については、検食の徹底を行い、厨房会議を月1回実施するなど意見交換する機会を積極的に持つことで57件の献立改善につなげることが出来た。少しずつ料理の仕上がり像の統一が図れてきているが、新しいスタッフが入ると浸透できていないことが見受けられる。

食事形態について、園全体で理解を深めることについては研修会で説明する機会を持つことはできたが、ケアカンファレンスにおいて、現場スタッフが、担当ゲストの食事形態を理解していないことが多く、各部署の部門会議において説明する機会が必要であることが考えられた。食事形態の説明資料作成は行えたが、各部書と日程調整を行うことができず説明する機会が持てなかったため、次年度実施する。

●年間行事食・・・略語の説明→み（弥勒園） SS（ショートステイ）

日付	行事名	SS
		合同
4月	お花見(間食5種類の和菓子)	○
	お花見弁当	○
	家族食事会(桜餅)	○
	手巻き寿司パーティー(11種類の具)	

5月	焼肉バイキング	○
	3種の土鍋ご飯バイキング	
	家族食事会(ホットケーキ)	
	抹茶プリン	○
6月	焼き鳥バイキング	○
	揚げ物バイキング	
	家族食事会(塩釜)	
	さつま芋団子	○
7月	そうめん・おにぎりバイキング	○
8月	かき氷	○
	粉ものバイキング	○
9月	パフェ作り	○
10月	4種の土鍋ご飯バイキング	○
	家族食事会(草餅)	
	秋刀魚バイキング	
11月	焼き芋	○
	串揚げ	○
	おしるこ	○
	家族食事会(塩釜)	
	さつま芋の天ぷら盛合せ	
12月	2種のおはぎ	○
	さつま芋餅作り	
	クリスマス	○
1月	正月・御節	○
	手巻き寿司	○
	おでんバイキング	
	家族食事会(ホットケーキ)	
	おしるこ	○
2月	鍋バイキング	○
	バレンタイン(チョコプリン)	○
	家族食事会(雛餅)	
	焼きそば・お好み焼きバイキング	
3月	おでんバイキング	○
	家族食事会(抹茶ホットケーキ)	

<事務部>

①協働作業を通じ、ノウハウの共有を推進（5S活動推進）

年度途中で大幅な人事異動を余儀なくされたが、主要業務については滞りなく遂行することができた。更に、引継ぎを行う際に業務の問題点や改善点が明確になり、目標であるノウハウの共有を推進することにより、事務部全体の基礎能力の向上につながった。5S活動については、複数年度にわたる業務の流れを把握して実施する必要がある為、来年度も引き続き協働作業の一環として取り組みたい。

4. 《施設整備等》・・・49万以下の主な工事等を記載

項目
ナースコール子機修理12台
ストレッチャー1台購入

5. 《行事等の実施内容・反省点》

<毎月定例行事> 1・3F共通

行事名	反省等																								
くもん式 学習療法	前年度より引き続き、業務内で学習療法を行う事ができている。週4回以上は実施できており、コミュニケーションを目的として、実施時の様子や会話を記録として残す事も継続して行うことができた。また、ご家族が会話の内容を読み、「こんな事も話したんですね。」と驚かれながらも喜んでおられることもあった。																								
園芸療法	<p>園芸療法士より1回/月の指導を仰ぎながら、職員と参加ゲストで植物を育て、下記のように季節に応じた製作作業を実施している。</p> <p>毎月、園芸療法終了後、作業内容や進行の反省をしながら、スムーズに実施する事ができた。季節に応じた作品を作成したり、ゲスト同士も楽しそうに会話をされている。</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>4月</td><td>多肉植物の挿し芽</td></tr> <tr><td>5月</td><td>はつか大根種まき、ミニトマトの植え付け</td></tr> <tr><td>6月</td><td>花苗の寄せ植え</td></tr> <tr><td>7月</td><td>花の寄せ植えの手入れ、手浴</td></tr> <tr><td>8月</td><td>手浴</td></tr> <tr><td>9月</td><td>花苗の寄せ植え</td></tr> <tr><td>10月</td><td>花苗の寄せ植え、多肉植物の寄せ植え</td></tr> <tr><td>11月</td><td>松ぼっくりの吊り人形</td></tr> <tr><td>12月</td><td>中止</td></tr> <tr><td>1月</td><td>花苗の寄せ植え</td></tr> <tr><td>2月</td><td>花の寄せ植えの手入れ、手浴</td></tr> <tr><td>3月</td><td>ミニ花籠のアレンジメント</td></tr> </tbody> </table>	4月	多肉植物の挿し芽	5月	はつか大根種まき、ミニトマトの植え付け	6月	花苗の寄せ植え	7月	花の寄せ植えの手入れ、手浴	8月	手浴	9月	花苗の寄せ植え	10月	花苗の寄せ植え、多肉植物の寄せ植え	11月	松ぼっくりの吊り人形	12月	中止	1月	花苗の寄せ植え	2月	花の寄せ植えの手入れ、手浴	3月	ミニ花籠のアレンジメント
4月	多肉植物の挿し芽																								
5月	はつか大根種まき、ミニトマトの植え付け																								
6月	花苗の寄せ植え																								
7月	花の寄せ植えの手入れ、手浴																								
8月	手浴																								
9月	花苗の寄せ植え																								
10月	花苗の寄せ植え、多肉植物の寄せ植え																								
11月	松ぼっくりの吊り人形																								
12月	中止																								
1月	花苗の寄せ植え																								
2月	花の寄せ植えの手入れ、手浴																								
3月	ミニ花籠のアレンジメント																								
音楽療法	毎月4回音楽療法士の講師と職員で実施している。季節の歌、馴染みの歌を中心にセッションを実施したことにより、音楽を通して楽しい穏やかな交流の場の提供ができたと思われる。毎回、固定曲を使用することで、安心感と共に記憶力の維持・発声・発語への促進につながった。今後も音楽を用いた活動を通して和やかな時間を提供していきたい。																								

<年間行事>

●プラム棟

日付	行事名
4月13日	お花見バイキング
5月7日	外出行事(かんでかんで)
5月11日	焼肉バイキング
5月14日	母の日会
6月15日	焼き鳥バイキング
6月18日	父の日会
7月13日	おにぎり、素麺バイキング

7月8日・15日	新開地劇場観劇
8月3日	かき氷屋さん
8月4日	プチ納涼祭
8月10日	お好み・焼きそばバイキング
9月14日	デザートバイキング
9月17日	外出行事（西神南買い物）
10月7日	にこにこ園の運動会
10月12日	土鍋ご飯と秋刀魚パーティー
11月9日	串カツパーティー
11月14日	紅葉を求めていざ如意寺へ
12月21日	クリスマスパーティー・バイキング
1月9日	初詣
2月8日	お鍋パーティー
3月8日	おでん屋さん
3月17日	自宅に帰る
3月18日	西神中央へ買い物に行こう

●一般棟

日付	行事名
5月14日	母の日行事
5月18日	旬の味覚もあるよ、土鍋ご飯
5月23日	神戸動物王国へ
6月13日	外出行事：買い物
6月15日	揚げ物バイキング
6月18日	父の日～居酒屋喫茶～
7月18日	パチンコをしに行こう
7月20日	ソーメンバイキング
7/3～7/10	七夕週間
8月1日	喫茶店へ行こう
8月17日	夏祭り（遊び部門）
8月17日	夏祭り（食べ物部門）
8月30日	魚の棚のお好み焼きが食べたい
8月31日	田園～楽しい思い出作り～
9月19日	秋のパン祭り
9月29日	チェリッシュで美味しいお食事を
10月4日	季節の鑑賞&美味しいお食事を
10月15日	神戸動物王国～猫と触れ合おう～
10月20日	さんま祭り
10月27日	運動会
11月21日	秋の味覚祭り
11月26日	カラオケ大会
12月19日	クリスマス会
12月19日	クリスマス会（昼食）
12月25日	農業公園で楽しいお食事を
1月9日	諏訪神社で初詣ツアー
2月21日	お好み焼き・粉もんパーティー
3月3日	ひな祭りレクリエーション

6. 《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名				
月1回	看取り・褥瘡委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	主任会議	行事委員会	部門会議	給食委員会
	マナーアップ委員会	全体会議 (1F・3F)	非常災害時対策委員会	デイ検討委員会	正副施設長会議
	人事委員会	研修委員会	予算委員会	広報委員会	
	身体拘束防止対策委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	
随時	ケアカンファレンス		人事検討委員会		

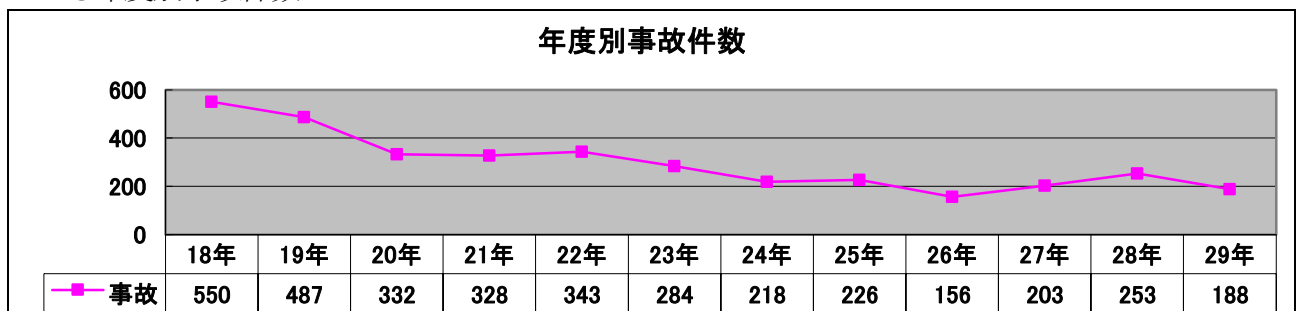
日付	研修会内容	参加人数
4/26	業者説明、災害食、消火器説明等	28名
5/31	学習療法、5S活動報告、アンケート報告等	28名
6/28	看取り介護事例発表等	25名
7/2	看取り介護発表会（ご家族向け）	29名
7/26	遠藤メソッド活用事例、感染症事例等	27名
8/30	図上訓練	21名
9/13・20・27	虐待防止研修	全職員
10/25	褥瘡事例、吸引実技等	20名
11/2	パワーハラ研修	管理職
12/20	新人王、健診結果と対策、腰痛予防の介助法	30名
1/24	D-1グランプリ	22名
1/31	心肺蘇生	25名
2/28	介護技術向上の取り組み、嘔吐処理実践	19名
3/28	昇級・昇格者決意発表、看取り期における段階	26名

7. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数



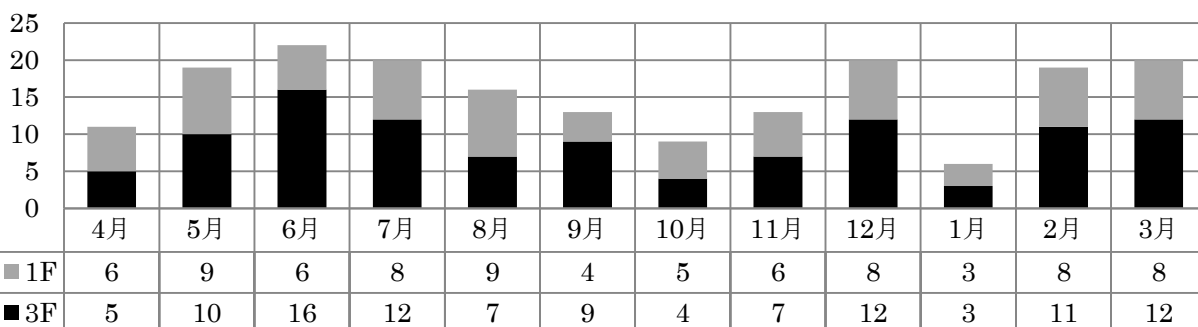
○平成29年度報告件数

平成29年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	4,507件	188件	4,319件		4,686件	253件	4,433件

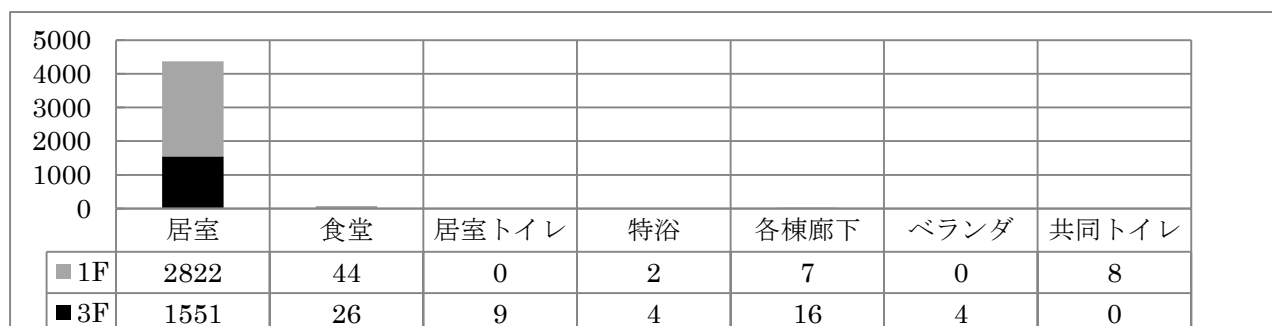
○内訳

平成29年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
1F	2,888件	80件	2,808件	1F	3,256件	120件	3,136件
3F	1,619件	108件	1,511件	3F	1,430件	133件	1,297件

月別事故報告数

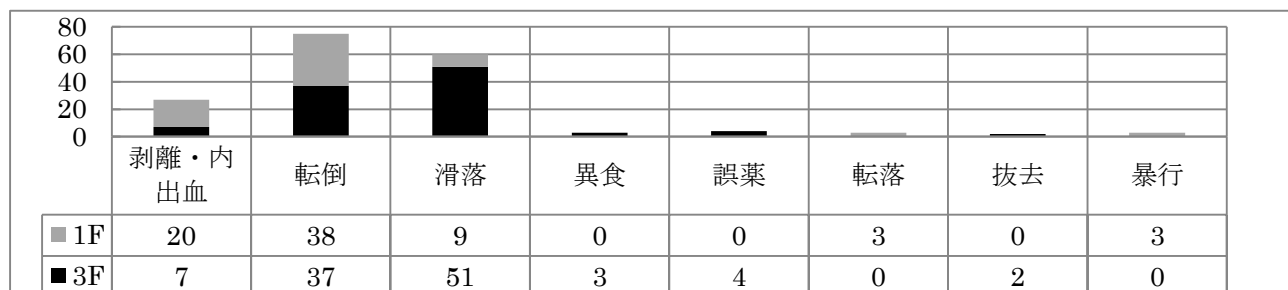


②発生場所別件数



③発生内容別件数

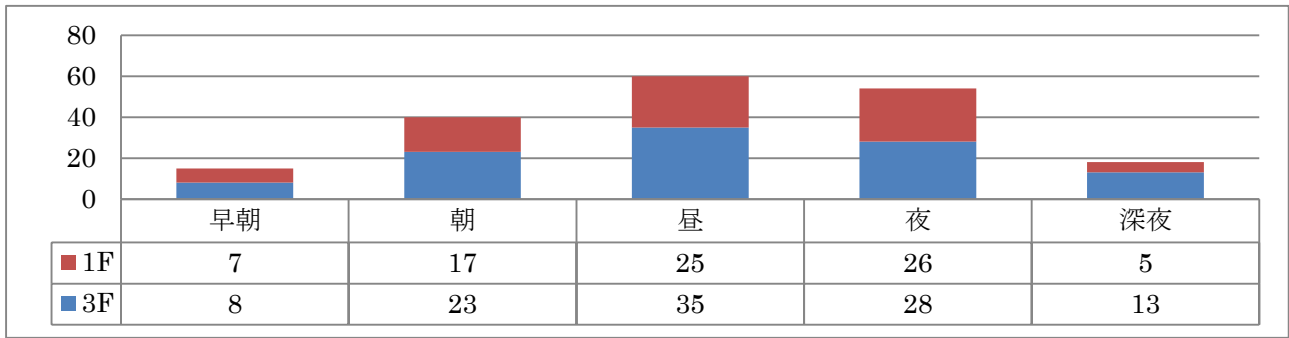
○事故内容



④時間帯別件数 ※割合→全体に占める割合

早朝 4:00~6:59	朝 7:00~11:59	昼 12:00~16:59
夜 17:00~22:59	深夜 23:00~3:59	

○事故の時間帯



⑤まとめ

1 F

前年度と比べると事故が42件減少している。前年度はハイリスクな一部のゲストが同様の転倒事故を繰り返してしまっていたが、今年度は危険予知シートを活用するなどし、類似事故の減少に努めることが出来た。遠藤メソッドの導入で介助方法を統一し、剥離や内出血を減少出来た事も成果ではないかと考えている。人員が少なくなりがちな日曜日に離園事故が多く起きてしまった。部署の課題として再発防止に努めていきたい。

3 F

前年度に比べ、剥離・内出血事故が12件、転倒・滑落事故が11件減少している。事故は133件から108件と減少している。事故防止に対する意識は向上しているように思われるが、ゲストの状態や事故対策の情報共有が不十分の為、類似の事故が見られた。また、職員間での事故防止に対する意識や知識の差がある為、遠藤メソッドを導入し職員の意識の向上を図り、事故件数の減少と共に安心して暮らせるように取り組んでいく。

8. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

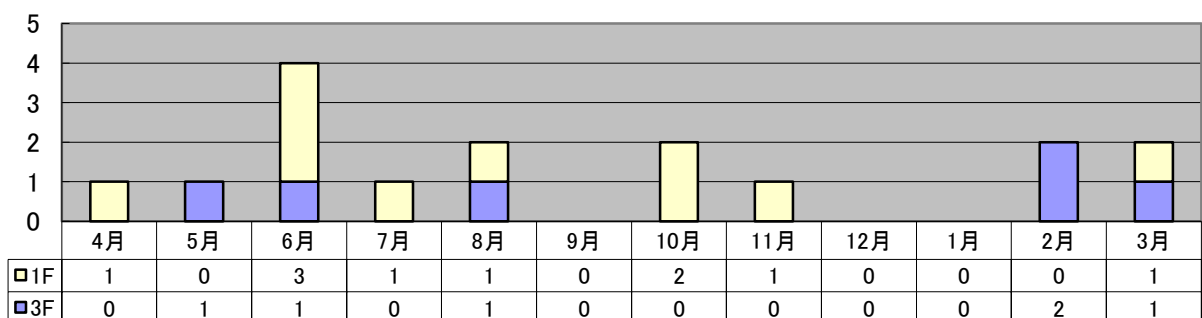
○報告件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

29年度				28年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	16件	1件	15件		25件	1件	24件

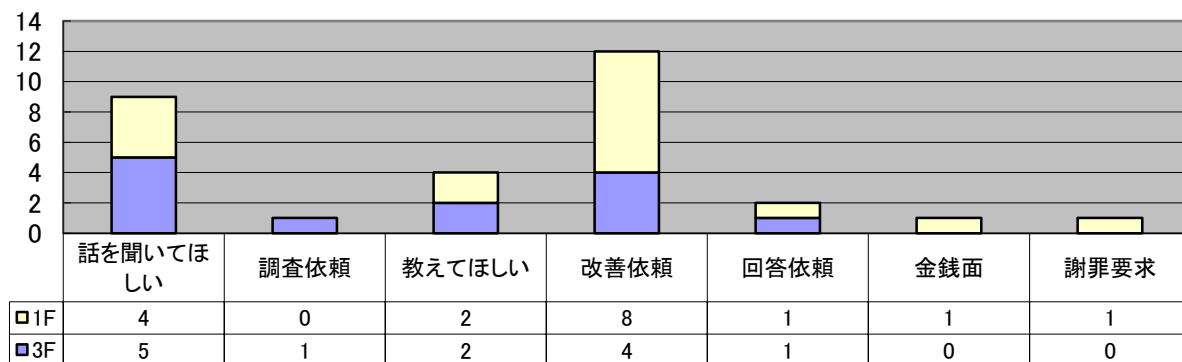
○内訳

29年度				28年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
1F	10件	1件	9件	1F	9件	0件	9件
3F	6件	0件	6件	3F	16件	1件	15件

●月別件数



●要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

1 F→ご家族との関係性構築ができておらず、外部受診や面会で不快感を与えてしまう。職員が間違えて、着脱介助時に他ゲストの衣類を着用する。男性ゲストによる女性ゲストへの卑猥な行為。居室を他ゲストに物色される。大事園ロビー玄関の除菌スリッパ故障。ゲスト私物の紛失。1階組織体制変更への不安。面会時の対応。
3 F→個人対応面での不備、個人物管理の不備、外部サービス（散髪）での不備

○まとめ

プラム棟

ゲストの行動に対し、見守りや対策が十分に行えていない事から、ご家族やゲストからの相談・苦情に発展するケースが多かった。また、ご家族の心情を十分に理解出来ておらず、不適切な発言をしてしまい不快感を与えてしまうケースもあった。今後は、認知症ケアに対する専門性の向上やご家族との信頼関係構築を目指していきたい。

一般棟

決まり事への周知が不徹底であり、結果として家族様より相談として挙がってくるケースが目立つ。また、決まりごとが守れていないのが前提にあるが、臨機応変な対応が求められる中で、傾聴から始まる介護技術の低さが露呈されていた。
周知徹底のツールの確率化が急務であると思われる。また、それらを管理する方法も同時に進めていかなければならない。部署の現状として、自立ゲストが増加傾向にある為、今後、家族様からではなくゲストから直接相談されるケースも増えてくると思われる。

9. 《総括》

今年度と昨年度を比較すると、事故件数の減少が挙げられる。委員会が中心となって課題解決を検討してきた事やハイリスク者の減少等が要因として挙げられ対策が現場で機能してきたと感じている。また、遠藤メソッド導入によりノウハウを共有していく意識が高まってきたことも要因の一つと考えられる。

また、看取り介護への認知度を高めることへも取り組んでおり、ご家族へ向け『看取り勉強会』を開催している。今回で4回目となるが、前回参加されていないご家族へ向け参加を特に募り29名が参加された。これにより、理解度が進み、死生観の考え方は様々であるが、実践報告を通じて当園の『看取り介護』を伝える事ができたことで、スムーズに看取り期へ移行できるようになってきている。

今後も事業目標達成の為、職員同士の連携を深め、ゲストが安心して大慈園で生活できる様努めていきたい。また、これまで経験してきたことを後世に残し、次へのステップにするべく、ゲスト情報の一元化を図り、より良い看取り介護につなげたい。